



I'm**POSSIBLE**

LEARN. ENGAGE. INCLUDE.

東京 2020 スペシャル

【 東京 2020 パラリンピックの レガシーについて考えてみよう！ 】

教師用 授業ガイド

(小学生版)

- 授業の展開に沿って、【指導・声かけ例】【+アルファ情報】を掲載しています。
- 【+アルファ情報】は、すべて伝えなければならない情報ではありません。興味・関心を引き出すために、クラスのそれまでの学習経験なども踏まえてご活用ください。
- 一方的に教師が話すのではなく、児童の既習事項などと絡め、児童に考えさせるような展開にしましょう。

(教材の内容は、2022 年 4 月 1 日現在の情報をもとにしています。)

I'mPOSSIBLE 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

東京 2020 スペシャル

東京 2020 パラリンピックの レガシーについて考えてみよう！

国際パラリンピック委員会公開資料 1

I'mPOSSIBLE 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

2020 東京大会

パラリンピックが始まってから初めての1年延期された大会。一部の学校からの観戦を除き、観客を入れずに行われた。

■ 2021 年 8 月 24 日（火）～ 9 月 5 日（日）
 ■ 競技数：22 競技 527 種目
 ■ 代表的な競技会場：国立代々木競技場・東京体育館
 ■ 参加国・選手数：162 か国（難民選手団を含む）・4,403 選手



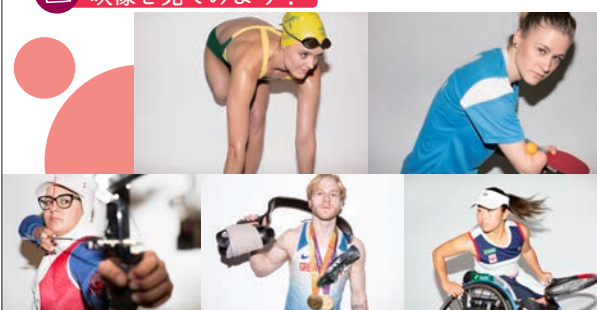
国際パラリンピック委員会公開資料 2

[指導・声かけ例]

- ・東京 2020 パラリンピック大会をテレビで見たかな？どんな競技かな？
- ・新型コロナウイルス感染症の世界的拡大のため、1 年延期された史上初のパラリンピック大会であったこと。それにもかかわらず史上最大人数の選手たちが世界中から東京に集まり、熱戦を繰り広げ、184 の世界記録が塗り替えられた。

I'mPOSSIBLE 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

映像を見てみよう！



国際パラリンピック委員会公開資料 © WOWOW WHO I AM PROJECT 3

[指導・声かけ例]

- ・本時の導入として映像を見る。クラスの状況によっては、さらに導入を加えてもよい。
- ・教師による一方的な説明にならないように、児童各自の考えをクラス全体に共有しながら進行する。

I'mPOSSIBLE 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

パラリンピアンからのメッセージ

東京 2020 パラリンピックで「日本が盛り上がった」で終わらせたくない！

パラスポーツを盛り上げて、たくさんの人を巻きこむのは、王者になるより大切なこと！



スポーツの大会というだけではない役割！

国際パラリンピック委員会公開資料 © WOWOW WHO I AM PROJECT 4

[指導・声かけ例]

- ・映像の内容の簡単な振り返りをする。児童に感想を聞いてもよい。
- ⇒「映像の中で、パラリンピアンはどんなメッセージを言っていたかな？」

I'mPOSSIBLE ©東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

目標 パラリンピックが目指すこと

大会を通じて、共生社会をつくっていくこと

共生社会 だれもが自分らしくいられる社会

年^{せい}れい、性^{せい}別、人^{じん}種、障^{しょう}害のあるなしなどに関^かわらず、
だれでも・公平に・様々な自分の意志で選^{えら}ぶことができる社会



国際パラリンピック委員会公認教材 5

【指導・声かけ例】

- ・本時の東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考える前提として、導入の映像を利用しながら、パラリンピックにはスポーツ以上の役割があることを認識する。
- ⇒「映像の中で選手たちが言っていたように、パラリンピックは、単なるスポーツの大会というだけでなく、共生社会をつくっていくことを目指しているんだね。」
- ⇒「選手たちは、勝つことを目指すだけでなく、自分らしくいられる社会をつくりたいと願っているんだ。」
- ・ここではパラリンピックと共生社会の関係についての詳細を説明することは難しいので、スライド4の読み上げに留めてよい。
- ⇒「共生社会という誰もが自分らしくいられる社会というのは、障害があるから、これはしてはいけないとか、あそこに行くことができないといった制限がなく、自分の意思で選ぶことができる社会だよ。」
- ⇒「障害の有無だけでなく、年齢、性別、人種などに関わらず誰でもそうあるべきなんだ。」
- ・このスライドは、印刷して授業の最後まで掲示しておくとうい。

＋アルファ情報

- ・2013年に、東京でパラリンピックが行われることが決まり、日本でもようやく「共生社会」の意味や、それを実現させるために様々なものに新しい考え方で対応していくことの大切さに、多くの人が気づき始めた。障害の有無だけでなく、状況やニーズが異なる様々な人がいることを理解する考えが広がり始め、施設や設備、制度を整えようという動きが出てきた。この考えを未来に残したい。
- ・1964年の東京パラリンピックでは、日本から出場した選手たちの多くは病院や施設で生活をしており、そこから大会に参加し、そこに帰って行った。しかし欧米の選手の多くは、家庭も職業も持ち、社会の中で生活していた。
- ・1964年をきっかけに日本でも「障害がある人も社会の中でほかの人と同じように生活できるようにすべきという考え」が芽生え始めたが、「スポーツだけでなく、様々なニーズが

I'mPOSSIBLE ©東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

今日のめあて

東京 2020 パラリンピックの
レガシーについて考えてみよう

国際パラリンピック委員会公認教材 6

【指導・声かけ例】

- ・本時の目当てを確認する。
- ⇒「共生社会を目指す動きをつくるという役割をもった東京 2020 パラリンピックのレガシーについて、今日は考えるよ。」

I'mPOSSIBLE ©東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

レガシー

未来に受けついで
いくもの

国際パラリンピック委員会公認教材 7

【指導・声かけ例】

- ・レガシーの言葉の意味を確認しながら、本時の目当てを再確認する。
- ⇒「『レガシー』は英語で、『遺産』という意味だけど、『次世代に受け継ぐもの』という意味や、『時代と共に進化し、未来へと生き続けていく財産』という考え方もあるよ。」
- ⇒「パラリンピックは、みんなにどんなものを残していくのかな？」
- ⇒「東京 2020 パラリンピックをきっかけに、未来に大切に受け継いでいきたい様々な良いことが起こったよ。今日はそれを勉強しよう。」

ある人が、自由に行動できるよう、公平な環境を担保するのは社会の責務であり、当たり前であるべきという考え」を実現させる動きが本格的に日本に出てきたのは、東京 2020 パラリンピックの招致が決定した 2013 年以降と言える。



【指導・声かけ例】

・展開①の導入

⇒「ここはどこだろう？」

⇒「新しくなった国立競技場だよ。みんなも行ってみたいよね。みんなはどんな競技が見たいかな？ 1 層にも 2 層にも 3 層にも席がある。どこで見たいかな？」

【国立競技場】

■ 地上 5 階、地下 2 階（旧競技場：地上 5 階）
高さ：約 47m

■ 観客席：約 68,000 席

- ・国立競技場の観客席は森の木漏れ日をイメージして 5 つの色（白、黄緑、グレー、深緑、濃茶）が使用されている。
- ・フィールドに近い部分は濃い色を多く、屋根に近い部分は薄い色を多くランダムに配置している。

■ トラック：全天候型 400m × 9 レーン、合成ゴム

■ 芝生：天然芝（地中温度システム、散水システム）

■ 木材の使用について

- ・全体使用量：約 2,000m³（屋根、軒庇（のきびさし）等に使用）
- ・軒庇には 47 都道府県から森林認証を取得した木材を調達し、スタジアムの方位に応じて配置している。



東京 2020 大会のレガシーの 1 つ

だれもがスポーツを楽しめるように
工夫された場所



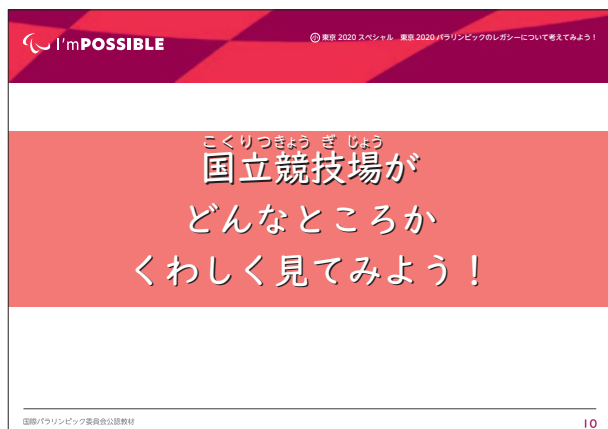
【指導・声かけ例】

- ・障害がある人にとって、スポーツをすること、観戦すること両方にハードルがある。様々な人が楽しめるように工夫されている。

⇒「国立競技場は東京 2020 大会の会場の 1 つだね。誰もがスポーツを楽しめるように工夫された場所だよ。」

＋アルファ情報

- ・障害がある人には、そもそもスポーツに参加しにくいという背景がある。令和 2 年 12 月に実施された「障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究」によると、障害者（成人）の週 1 回以上のスポーツ・レクリエーション実施率は 24.9%。障害がある人の実施率が低いのは、利用可能な施設がまだ少ないこと、受け入れ側の無理解、指導者の不足、高額な競技用具、またスポーツ施設までの移動が困難といった様々な問題がある。なお、障害のない人（成人）の週 1 回以上のスポーツ実施率は 59.9%。（令和 2 年 11 月「スポーツの実施状況等に関する世論調査」より）



【指導・声かけ例】

- ・誰もがスポーツを楽しめるように、国立競技場がどう工夫されているかを、具体例を確認しながら検証していく。



【指導・声かけ例】

- ・第1の事例として、車いすエリアの工夫から考えさせていく。クイズという形で提示しても良い。
- ・車いすの人の席という答えが児童から出てくると予想されるが、座席のないスペースと座席が交互にあることに注目させて、「車いすユーザーとそうでない人が一緒に観戦できる場所」であることに着目させたい。

※障害のある人だけを分けて対応するという考え方をする児童もいることが考えられる。「(例えば腕に障害があるなど車いすユーザーではない人も含めて) 障害のある人が座る席」といった意見が出た場合は、「腕などに障害があり車いすを使っていない人も、一般の席で見ることができないのかな？」と、障害があることだけが分けて座る理由にならないことに、児童が気付けるような問いかけをするとよい。



【指導・声かけ例】

- ⇒「車いすの人だけがこの場所を使っているわけではないね。」
- ⇒「座席に座っている人もいて、みんなで一緒に楽しんでいる。一緒に観戦できる席なんだね。」
- ⇒「これまでは、座席はなくて、車いすの場所（スペース）しかなかったよ。一緒に行く人は、一緒に観戦するのではなく、車いすの人を介助する役割と考えられていたんだ。だから、横には並べず、車いすの後ろに席が作られることも多かったよ。また、車いすの人の介助は子どもにはできないという理由で、子どもはその場所には一緒に行けないこともあったんだって。」

- ・好きな人や大切な人と一緒に、隣同士で観戦することの意味を考えさせたい。

- ⇒「もしあなたが車いすを使っていて、家族や友だちと一緒に映画やスポーツを見たいのに、車いすを使っているという理由だけで、別の場所で一人で見ると言われたらどうする？どんな気持ちになるかな？」

- ・自分だったら競技場のどの場所で観戦したいかなどを聞いて、次のスライドにつなげ、座りたいところは人によって違うことを理解させてもよい。

- ⇒「こういう席は、競技場のどんなどころに作られていると思う？」

＋アルファ情報

- ・従来の日本の施設は、車いすエリアには、車いすの人と介助者（お世話をする人）だけしか入れなかった。しかも、介助者の席は車いすの人の後ろということも多かった。しかし、車いすユーザーの中には、介助などの必要がなく一人で行動できる人もいる。行動をともにしている人が必ずしも「介助者」ではない。
- ・行動を共にしている人は「介助者」ではなく、「同伴者・同行者・仲間（一緒に楽しむ人）」と言葉を変えることで、概念が大きく変わり、施設のつくりも変わった。



【指導・声かけ例】

・座りたいところは人によって違い、誰でも好きな場所で観戦したい気持ちを持っていることを理解させる。

⇒「これまでは、車いす席は会場の中に一か所だけまとめてつくられることが多かったけれど、どの層でも観戦できるようにになったよ。」

⇒「好きな席を選びたいよね。みんなも同じだよ。」

+アルファ情報

・スポーツや舞台などを楽しむとき、座席に関して重要な条件が3つある。①十分な席数があること②席が自由に選べること（水平、垂直方向の分散配置）③視界が十分保たれること（サイトラインの確保）である。今まで車いすの人は、前の人が立ってしまうと、一番盛り上がっている場面で何も見えなくなり、疎外感を感じていた。国立競技場の座席は、③の意見が反映されて、前の人が立ち上がっても視界が遮られることがない設計になっている。

・また手すりの位置も、目線にかからない高さを考慮している。手すりを低くすることで、転落の可能性も指摘されたため、椅子の位置を後ろに下げるなどの工夫も行った。（後述のユニバーサルデザインワークショップの中で、最善の場所を検証した）

・手すりに設置されている充電コンセントは、電動車いすや酸素吸入器の充電のためのものである。初期の段階では、携帯の充電など、コンセント設置理由以外の目的での使用を阻止するために、コンセントのケースに鍵をつけるべきという施工者側の意見が出たが、広い会場で人混みの中、鍵を取りに行かないと使えないのは不便。必要な時にすぐに使えないと意味がないという当事者団体からの意見で鍵はつかないデザインが採用された。

・東京 2020 パラリンピックをきっかけに、バリアフリー促進のための取り組みが求められ、客席に関しても世界の標準に近づこうとした。車いす席が世界基準の席数に増え、様々な場所にできたことは、画期的なことではある。しかし、状況が変わったとはいえ、マイナスであったものを、やっとゼロにする改善だったともいえる。

	新※	旧
ざ せき 座席数	やく 約 68,000	約 54,000
車いす席	約 500	約 40
車いす席の割合 わりあい	0.74% ぱい	0.074%

およそ 10 倍！

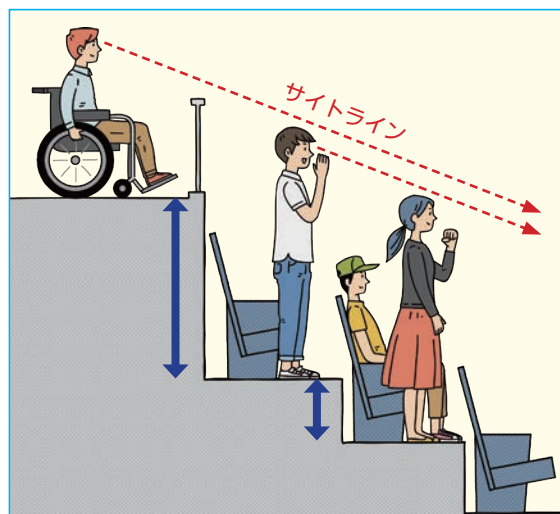
【指導・声かけ例】

・車いす席の新旧比較をしながら、車いす席がどう変わったかを確認する。ただし、工夫されたとはいえ、当然のことであることも理解させたい。

・時間があれば、スライド 12 の +アルファ情報 の「サイトラインの確保」について説明をする。

⇒「数が増えただけではなく、様々な場所に配置されたから、見る場所を選択できるようになったね。車いすだけ別の場所にするという考え方がなくなったから、友だちや家族と一緒に楽しめるようになった。また、立ち上がれなくても、前がきちんと見えるように工夫もされているんだ。でも、これって障害のない人がスポーツやイベントなど、何かを見に行く時には当たり前のことだよ。車いすの人にとっては“やっと当たり前になった”という気持ちだね。」

〈サイトラインが確保できる位置にある車いすエリア〉



I'mPOSSIBLE ©東京2020スペシャル 東京2020パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

目次 こくりつきょう ぎ じょう く ふう
国立競技場の工夫

補助犬用のトイレ 男性用トイレのオムツ交換台

補助犬用のトイレ
Assistance dog toilet

補助犬のトイレを気にせずに、長い時間過ごせる！

男性用トイレのオムツ交換台
オムツ交換台

性別に関わらず、赤ちゃんのお世話ができる！

国際パラリンピック委員会公開資料 15

【指導・声かけ例】

- ・スライド14,15で、障害のある人だけでなく、年齢、性別、人種などに関わらず気持ちよく楽しめる場所となっていることを示す。

⇒「補助犬用のトイレもあるので、補助犬のトイレの心配をしないで観戦できるね。」
⇒「オムツ交換ができる場所が男性用トイレの中にもできたから、性別に関わらず誰でも赤ちゃんを連れて行けるね。」
⇒「施設を利用する様々な人のことを考えて、観客席以外にも工夫がたくさんあるんだ。」

I'mPOSSIBLE ©東京2020スペシャル 東京2020パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

目次 こくりつきょう ぎ じょう く ふう
国立競技場の工夫

小さい子どもや車いすを使う人も飲みやすい低い水飲み場

日本語が読めない人のことを考えた表記

外苑前駅 890m
Gaienmae Sta.
外苑前駅 外苑前駅

半蔵門線 大江戸線 銀座線
青山一丁目駅 1,460m
Aoyama-Itchome Sta.
青山一丁目駅 1,460m

国際パラリンピック委員会公開資料 16

＋アルファ情報

- ・後述のユニバーサルデザインワークショップにおいて、車いすユーザーや背の低い人のための、低い水飲み場が提案された。
- ・同じく場内の案内表記は、交通機関に合わせて4ヶ国語対応をしている。エレベーターの音声案内は、常時4ヶ国語であると煩雑になるという意見から、緊急時以外は2ヶ国語（日、英）とすることで落ち着いた。

I'mPOSSIBLE ©東京2020スペシャル 東京2020パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

目次 こくりつきょう ぎ じょう く ふう
国立競技場

だれもが気持ちよくスポーツを楽しめるよう工夫された場所

東京2020大会のレガシーの1つと言える場所だね！

国際パラリンピック委員会公開資料 17

【指導・声かけ例】

- ・国立競技場がどういう場所なのか、ここまでの展開をまとめる。

⇒「国立競技場には、様々な人のことを考えた工夫がいっぱいあったね。」

I'mPOSSIBLE ©東京2020スペシャル 東京2020パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

Q こくりつきょう ぎ じょう く ふう
国立競技場の工夫はどのように考えられたの？

国際パラリンピック委員会公開資料 18

【指導・声かけ例】

- ・ここまで見てきた国立競技場の工夫が、どうやって成し遂げられたのかを考えさせていく。

⇒「この工夫はどのように考えられたのかな？だれがこの工夫を考えられたのかな？」

I'mPOSSIBLE 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

A 異なる立場の様々な人から話を聞き、多くの意見をできるだけ取りこんでいった。



14 団体
が参加

公式な会議
だけでも 21 回

1 回 3 ～ 4 時間
もの話し合い

85 の
改善

国際パラリンピック委員会公開資料 提供：独立行政法人日本スポーツ振興センター 19

【指導・声かけ例】

- ・国立競技場の設計にあたって、国立競技場を使う様々な当事者の意見を取り入れる「ユニバーサルデザインワークショップ」が開かれたことを伝える。
- ・クラスの状態に応じて、「ユニバーサルデザインワークショップ」という名称を伝えてよい。

⇒「競技場をつくる人だけでなく、車いすを使う人、視覚や聴覚（目や耳）に障害のある人たち、小さな子供がいる人など、競技場を使ったり観戦しに來たりする人たちの様々な意見が取り入れられたんだ。」

＋アルファ情報

【ユニバーサルデザインワークショップについて】

- ・国立競技場の建設をめぐるでは、最初の設計案が白紙に戻り、新たに公募を行うことになった。その際に業務要求水準書に「世界最高のユニバーサルデザインを導入した施設を目指すこと」、また「当事者の意見を聞くワークショップを開くこと」が要件として盛り込まれた。障害のある人、子育て世代の人、高齢者など様々な人の意見を聞く場が設定された。
- ・全国規模の団体から、ワークショップの構成組織が選ばれた。
- ・参加団体：社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会（旧社会福祉法人東京都知的障害者育成会）／公益社団法人全国精神保健福祉会連合会／一般社団法人日本発達障害ネットワーク／社会福祉法人日本身体障害者団体連合会／社会福祉法人日本視覚障害者団体連合（旧社会福祉法人日本盲人会連合）／一般財団法人全日本ろうあ連盟／特定非営利活動法人 DPI 日本会議／公益社団法人全国脊髄損傷者連合会／一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会／ミマモ・カフェ（子育て支援団体）／公益社団法人東京都老人クラブ連合会／公益財団法人日本補助犬協会（実施設計段階から参画）／公益財団法人日本パラスポーツ協会（個別ヒアリング）／一般社団法人日本パラ陸上競技連盟（個別ヒアリング）

- ・公式な会議以外でも、非公式な会合や団体ごとの個別ヒアリングが、時間をかけて丁寧に行われた。
- ・実際に実物大の模型をつくって、それを当事者が使い意見を言うという取り組みも行われた。
- ・ユニバーサルデザインワークショップの報告書は、国立競技場のホームページに公表されている。
- ・<https://www.jpnnsport.go.jp/newstadium/Portals/0/sonota/universaldesignworkshopnitsuite.pdf>

【ユニバーサルデザインとは】

※アクセシビリティ研究所 川内美彦先生より

- ・「あらゆる人に利用しやすいデザインにすること」である。一人ひとりの「使いやすい」は、感じ方によるものもあり、皆違うものである。いろいろな人の意見を聞いて、それを活かしたデザインを求めていくこと、それができるような仕組み（体制）をつくること、そういったプロセスがユニバーサルデザインにつながる。
- ・全員が納得するユニバーサルデザインがあるわけではない。できあがったモノに対しても様々な人から意見が出て改善していくことで、ユニバーサルデザインはさらに向上することができる。

I'mPOSSIBLE ©東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

たくさんの当事者の声を聞く会が開かれました。

意見のちがいもありますが、何度も話し合うとおたがいのことがわかってきて、別の良い案がうかぶのです。

参加者：佐藤さん

国際パラリンピック委員会公認教材 20

＋アルファ情報

■ユニバーサルデザインワークショップに参加した DPI 日本会議佐藤聡さんの話より

※ DPI 日本会議：「すべての障害者の機会均等と権利の獲得」を目的とする国際団体 DPI の日本国内組織（1986 年発足）。障害者の権利の実現を目指す活動を通して、全ての人が希望と尊厳を持って、ともに育ち、学び、働き、暮らせるインクルーシブな社会を創ることを目指している。地域の声を集め、国の施策に反映させ、また国の施策を地域に届ける活動をしている。

- ・東京 2020 大会をきっかけに、世界基準のユニバーサルデザインの実現を促進させるために、関係各所に働きかけた。
- ・日本は長年、障害のある人など特別な配慮が必要な人を区別し、場所や動線を分ける考え方が浸透している。しかし一方で、障害のある人たちの人権を考える時、「区別は差別」という考えの元、場所を分けずに、できるだけ同じ動線確保することが基本であるべきと考える国もある。
- ・手すりの高さや角度など、実物大の模型をつくって確認していった。
- ・団体の方が参加し話し合う中で、障害があるといっても様々で、快適に過ごすための多様な工夫が必要であることを実感できた。今回のような、より多くの人々が納得できる施設となるためのプロセスが、日本中に広がってほしい。

I'mPOSSIBLE ©東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

だれもが気持ちよく
過ごす場所を目指すには？

- ・「みんな」が使いやすいものを、「みんな」で考える
- ・自分と考えややり方がちがっても、その人の考えを知るために話し合い（対話）をして、よりよいやり方を考える

国際パラリンピック委員会公認教材 21

【指導・声かけ例】

- ・国立競技場が未来に残していきたいレガシーの 1 つといわれるのは、設計の段階から、当事者を含めた話し合いの場をつくったというプロセスにもあることを押さえる。

⇒「みんなで使う場所をつくる時は、みんなで話し合って決める。異なるやり方が必要な人たちとも話し合い、よりよい案を決めていくことが重要だね。国立競技場がこの考え方によって作られたこと、使う人みんなの話し合いによってできあがったということも、レガシーと言えるね。」

I'mPOSSIBLE ©東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

スポーツを楽しむには
競技場だけが使いやすくなれば
よいのかな？

国際パラリンピック委員会公認教材 22

【指導・声かけ例】

- ・競技場だけが整えられればスポーツを楽しむことができるのかという問いかけにより、競技場以外の場所について想像させる。

⇒「競技場にはどうやって行くのかな？ 泊まったりもするかもしれないね」

I'mPOSSIBLE 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

東京 2020 パラリンピックをきっかけに

公共交通移動等円かつ化基準改正
高い者、障害者等の移動等の円かつ化のそくに関する法律改正

ホームドアや駅のエレベーターの増加
ホテルのバリアフリールームの増加

国際パラリンピック委員会公認教材 23

【指導・声かけ例】

⇒「誰でも安全に移動ができるように、ホームドアができたり、改札の幅が広くなったりしたよ。ホテルなどの宿泊施設には、より多くのバリアフリールームをつくるように法律もできたんだ。これらもレガシーの1つだよ。」

⇒「東京 2020 大会をきっかけに、このように社会が少しずつ変わり始めているんだね。」

+アルファ情報

- ・日本盲人会連合（現日本視覚障害者団体連合）が 2016 年に実施したアンケートでは、視覚に障害のある人の約 3 割が駅のホームから転落した経験があると答えている。
- ・2019 年 9 月 1 日施行車いす使用者用客室の設置数（義務基準）：床面積 2,000㎡以上かつ客室総数 50 室以上のホテルまたは旅館を建築する場合は、客室数の 1% 以上の車いす使用者用の客室を設けなければならない。それまでは、客室数が 50 室でも 5,000 室でも一律に 1 室以上あれば「バリアフリー対応ホテル」であった。

I'mPOSSIBLE 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

**東京 2020 パラリンピックをきっかけに
共生社会を目指そうという考えが広まる**

共生社会

人々の意識が変わり始める
施設や設備が使いやすくなる
話し合いが増える
法律・制度が整う

東京 2020 パラリンピック
レガシーとして未来に受けついでいきたい

国際パラリンピック委員会公認教材 24

【指導・声かけ例】

・東京 2020 パラリンピックをきっかけに、様々なことが変わり始め、共生社会を目指そうという考えが広まってきたことが東京 2020 パラリンピックのレガシーのひとつであることを理解させる。

⇒「『誰もが自分らしくいられる社会のお手本となるような大会にしたい！』という大きな気持ちの流れ（機運）が高まり、人々の意識が変わり始めたんだね。施設や法律が整い、社会に暮らすみんなが話し合いを続けてどんどんよりよくしていく。そうしてみんなが暮らしやすい社会（共生社会）に向かっていくんだね。」

I'mPOSSIBLE 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

様々な工夫がつまった
競技場ができた！

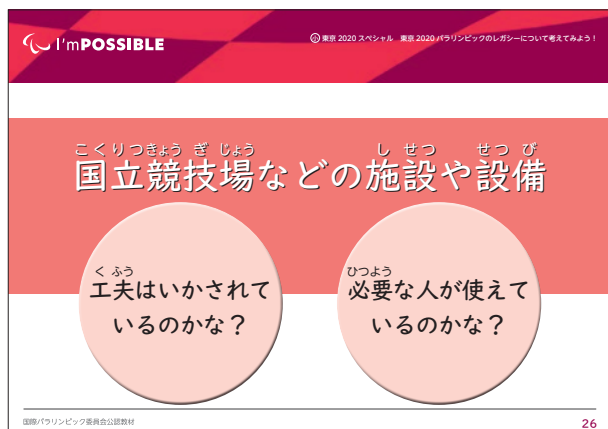
でも…

参加者：佐藤さん

国際パラリンピック委員会公認教材 25

【指導・声かけ例】

・施設、設備が完成して終わりではなく、運用の仕方や一人ひとりの使い方が大切であることに気付かせていく展開の導入。改良・建設するだけでは不十分で、どうやって使っていくか一人ひとりが意識することが大切であることに気付かせていく。



＋アルファ情報

■ユニバーサルデザインワークショップに参加した DPI 日本会議佐藤聡さんの話より

- ・ユニバーサルデザインワークショップとして、心残りは運用マニュアルができなかったこと。施設だけが整えばよいのではなく、その設備を必要とする人に情報が届き、きちんと使えるかが重要である。
- ・車いすエリアや集団補聴設備（補聴器等に対し、音声の間こえを補助する設備）が設置されているが、実際にそれぞれの席を必要とする人を対象にその席を販売するかは、スポーツ大会を運営する主催者側にかかっている。その席でなければ観戦を楽しめない人が、その席のチケットを選んで買えないという場合もある。
- ・案内サインの前にゴミ箱が置いてあってサインが見えない、補助犬トイレの場所を係員が知らずに案内されないなど、施設や設備が整っても、それが必要な人に届いていないことが実際に起きている。
- ・また、今回のユニバーサルデザインワークショップのように、その施設を使用する人の意見を聞く取り組みが、これから他の公共施設を作る際にも、必要事項として導入され機能するかを懸念している。このような取り組みが続いていくことこそ、レガシーと言える。



【指導・声かけ例】

- ・不適切な点がないか、子どもたちに問いかける。

⇒ 「何か気づいたことはあるかな？」

I'mPOSSIBLE 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

目 点字ブロックがある場所では

お

- ものを置かない
- 立ち止まらない



国際パラリンピック委員会公認教材 28

【指導・声かけ例】

- ・点字ブロックの上で立ち止まったりはいけないし、物を置いてはいけないという点は、よく理解していると思われるので、そういう意見が出たら大いに認める。

+アルファ情報

- ・白杖は、点字ブロックの幅よりも広いエリアで動かす。点字ブロックの上だけでなく周辺にも配慮が必要。

I'mPOSSIBLE 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

考えよう！

ワーク① あなたならどうする？

- ・エレベーター（6人乗り）
- ・車いすのスペースは立っている人の約3人分
- ・近くにほかにエレベーターはない



お母さんと妹とあなた

国際パラリンピック委員会公認教材 29

【指導・声かけ例】

- ・一人ひとりの行動について考えさせるワーク。
- ・ワーク①は、ワーク②を考えるための状況の説明に使うイメージで行う。ワーク①にはワークシートは使用しない。
- ・妹は、この場合は1人分と考えてよいこととする。

⇒「あなたの家族3人でエレベーターに乗っているよ。ここにいるのはあなた。あなたはこんな時どうする？どんなことを言うかな？」

⇒「ベビーカーはどのくらいのスペースとるかなあ。大きさも色々違うから、実際は悩むよね。今回は1人分と考えてみようか。」

⇒「どうしたら車いすの人はエレベーターに乗りやすいかな？」

- ・3人が中にいて、車いすは3人分と示しているので、詰めれば車いすの人は乗れる状況にある。「ぼくたち詰めますから乗ってください」「ママ、少し端に寄ろう」などの発言が児童から出たら、大いに認めて褒める。

+アルファ情報

- ・この場合は、車いすの入るスペースは約3人分と例示しているが、電動車いすの場合等は、もっと大きなスペースが必要になることもある。
- ・乗り降りの際、ドアが閉まらないように「開」ボタンを押したり、目的階のボタンを聞いて押す等の配慮や行動ができるとうい。
- ・エレベーターを降りる際に、中で車いすの方向転換をする人もいるので、車いすでない人が先に降りて外で「開」ボタンを押すなど、状況に応じた対応の例を示してもよい。

I'mPOSSIBLE 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

考えよう！

ワーク② あなたならどうするかを考えよう！

- エレベーター（6人乗り）
- 車いすのスペースは立っている人の約3人分
- 近くにほかにエレベーターはない

知らない若い男の人
知らないおじいさん
お父さんお母さんと妹とあなた



国語・パラリンピック委員会公開資料 30

【指導・声かけ例】

- ワーク②では「選択肢」に着目させたい。正しい方法が決まっているわけではない。ただし、階段やエスカレーターという他の選択肢が近くにあるので、それを選択できる人は、エレベーターから降りてそちらを使用するという考えが持てるかがカギ。
- スライド4で示しているような「だれでも・公平に・様々な自分の意思で選たける社会」が望ましい社会のあり方であるが、この事例から、複数の選択肢があるのは有利で、選択肢がないのは不利であるということに気づき、エレベーターを使う以外の選択肢がない人を優先するという発想を生み出したい。

⇒「あなたの家族4人の他に、知らない人が2人乗っているね。この後ろの人は、1人で来ているそれぞれ知らない人同士だよ。あなたなら、どうする？誰に何と声をかけるかな。」

⇒「あなたはどのようにしてエレベーターに乗ってるの？階段やエスカレーターを使わなかったのはどうして？便利だから？疲れたから？」

- 他に選択肢がないという意味で、ベビーカーと車いすの人のどちらが優先されるべきかは議論になるところ。日本ではあまり例を見ないが、国によっては、車いすユーザーが優先される場合も多くて驚いたという話を当事者からよく聞く。
- 家族4人が降りて次を待つ、お父さんと「あなた」が一緒に降りてくれる人がいないか聞いてみるなど、様々なパターンが想定される。実際に、自分だったらどうするか、誰に何と言うかを考えさせる。

※車いすの人も平等に考えるべきだから、車いすの人には待ってもらって今乗っている人たちはそのまま行けばいいという発言が出た場合は、
「車いすの人を特別扱いしないで、わけへだてなく考えるということはとてもいいことだね。でも車いすの人は、階段やエスカレーターなど選択できないんだよね。他のエレベーターもないよね。他に手段がないことはすでに平等とは言えないね。」
「条件があなたとは違うよね。こういうときも平等だと言って待たせていいのかな。」
「次に乗れるかどうかともわからないよね。」
などと問いかけて児童の考えを広げる。

- 意見が簡単にまとまりそうで、議論が深まらなかったら、「自分が急いでいるときだったらどうか？」「足を怪我して、松葉杖をついていたらどうする？」とシチュエーションを加えてよい。
- すぐに考え終わった児童には、「外でエレベーターを待っている人がたくさんいる場合はどうか？家族全員で降りて次を待つことはできるかな？」など更に状況設定を変えてもよい。
- ワークシートに記入する時間が見込めない場合は、まとめて最後に書かせる、宿題にするなど臨機応変に対応する。
- 授業後、家族や他の仲間と一緒に、自分たちだったらどうするかを話し、他の人の意見を聞くことを勧めてもよい。

I'mPOSSIBLE 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

施設や設備の使い方

- ほかに方法がなく、そこだけしか使えない人を優先する
- 必要な人が使えるようになっていけるかを意識する

国語・パラリンピック委員会公開資料 31

【指導・声かけ例】

- 1つめは、エレベーターの事例を説明している。多目的トイレや一般のトイレ内の広い個室なども同様。
- 2つめは、スライド26の点字ブロックがあるのに使用できなくなっているような事例について説明している。

※障害のある人はかわいそう・大変だから代わってあげる、優しくしたいといった発言が出た場合は、
「〇〇さんの優しい気持ちはとてもよくわかるし素晴らしいね。でも『かわいそうだから代わってあげる』と言われたらどう思うだろう？『私は階段で行きますからどうぞ』と言われた方が気持ちよいのではないかな？」
「障害のある人が大変なのは、エレベーターがないなどの施設が足りなかったり、点字ブロックの上に物が置かれたりしているなど人の配慮が足りないことがあるからだよね。そのせいでできることが限られてしまうからなんだね。」
など、障害がある人にとっての困難は、環境の未整備や運用の不具合にその要因があることを示す。

I'mPOSSIBLE 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

目 東京 2020 パラリンピックが目指すこと

大会を通じて、共生社会をつくっていくこと

共生社会 だれもが自分らしくいられる社会

年^{せい}れい、性^{せい}別、人^{じん}種、障^{しょう}害のあるなしなどに^かかわらず、
だれでも・公^{こう}平に・様^{よう}々に自^{みづか}分の意^い志^しで選^{えら}ぶことがで^あきる社会

国際パラリンピック委員会公開教材 32

【指導・声かけ例】

・スライド 31,32 で、パラリンピックの役割とは何か、東京 2020 パラリンピックにより何が生まれてレガシーとして受け継がれていくのかという本時のまとめを行う。

⇒「授業の初めのほうに、この話があったよね。国立競技場の車いす席のことを思い出してみよう。車いすを使う人が、好きな席を選んで、家族や仲間と一緒に楽しむことができる工夫があったよね。誰もが自分の意思で選択できる社会にしていけることが大事なんだ。特定の人には選択肢がない場合（状況）は、選択肢のある人が譲ることも大切。」

⇒「最初に見た映像のなかでパラリンピアンが『楽しかっただけで終わらせたくない』って言っていたのは、こういう意味だったんだね！」

⇒「選手たちが目指すのは、きっとこんな社会だよ。」

I'mPOSSIBLE 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

目 今日の授業をふり返ろう！

- レガシーについて感じたこと
- これから心がけたいこと
- 共生社会をつくっていくために、やってみたいこと

など

国際パラリンピック委員会公開教材 34

【指導・声かけ例】

・クラス状況に合わせて、振り返る内容を指定してよい。
・自身の行動について、具体的に考えられている意見を持った児童に発言を促す。
・最後のまとめとして、レガシーについて考えたことを大いに認め、子どもたち自身も共生社会をつくり出す一員であり、それが東京 2020 パラリンピックのレガシーであると認識できる場にする。

⇒「みんなにもできることがある。みんなが東京 2020 パラリンピックのレガシーを未来に受け継いでいくんだね！」

I'mPOSSIBLE 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

東京 2020 パラリンピックをきっかけに 共生社会を目指そうという考えが広まる

共生社会

あなたの行動が
変わる！

人々の意識が
変わり始める

施設や設備が
使いやすくなる

話し合いが
増える

法律・制度が
整う

東京 2020 パラリンピック

レガシーをつなぐには一人ひとりの行動が大切！

国際パラリンピック委員会公開教材 33

【指導・声かけ例】

・レガシーをつなぐには、共生社会を目指す動きを止めず、一人ひとり、つまり「あなたの考え方や行動が変わる」ことが大切であることを伝える。
・ワークを通して、レガシー＝共生社会を目指す動きについて、よく考えることができたことを認める。

⇒「先ほど見たスライドだね。
東京 2020 パラリンピックをきっかけに、『だれもが自分らしくいられる社会を目指そう』という機運が高まり、人々の意識が変わり始める。施設や法律が整い、共生社会に関わる人みんなが話し合いを続けて、どんどんよりよくなっていく。これらによってみんなが暮らしやすい社会に向かっていく。
こういったことすべてがレガシーだね。」

⇒「それに加えて、『あなたたち一人ひとりが考えて、行動できているか』ということがとても大切だね。」

⇒「ワークを通していろんなことを考えたみんなも、レガシーの大事な一部だよ。建物や設備のようにかたちが見えるものではないけれど、みんながこの役割を果たしながら社会を変えていくことは、見えるもの以上に大切な東京 2020 パラリンピックのレガシーだよ。」